

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970400170		
法人名	医療法人 景雲会		
事業所名	グループホームあずさ		
所在地	山梨県笛吹市春日居町国府436		
自己評価作成日	平成29年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年9月12日(火)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様は一人ひとりのペースでホーム内でゆったりと過ごされている。近隣の方々との交流の場を少しずつ広げていく努力をしている。地域行事に参加して地域の方々との交流を深めている。運営推進会議を2か月に1回開催して、助言、意見をサービスの向上に活かしている。併設病院との医療の連携を取り終末期の支援、看取りを行っている。5段階からなるスピーチロックの自己評価を作り、スタッフの意識付けを行っている。月1回の避難訓練、年2回の夜間防災訓練、地域の防災訓練に参加し入居者が避難出来る様にスタッフが身につける努力をしている。キャリアパス勉強会を行いスタッフのスキル向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は温泉街の一角にあり、同法人のリハビリテーション病院に併設されている。緊急時の相談や重度化・終末期ケアは病院と医療面での協力体制が整っている。事業所と病院への直通的な通路があり、1階・2階共に行き来が出来るので災害時の避難場所として協力が得られる体制となっている。防災訓練は毎月1回事業所で行い利用者への避難経路の意識付けをする事で、職員が自信を持って避難誘導できるように体験を通して実践で活かせる取り組みがなされている。地域の防災訓練にも積極的に参加し地域との交流に努めている。理念である「入所者とスタッフが寄り添い、触れ合い、笑顔で楽しく過ごせる」を目指し、スピーチロックの5段階チェック表で毎日自己評価し日々の実践に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 (グループホームあずさ)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	合同カンファレンスにて皆で話し合い理念を決める。理念を入りに提示、職員はネームの裏に記入していつでも見ても実践出来る様にしている	合同カンファレンスにて話し合い理念を決める。理念を入りに提示、職員はネームの裏に記入していつでも見ても実践出来る様にしている。	職員全員で作上げた理念「入所者とスタッフが共に寄り添い、触れ合い、笑顔で楽しく過ごせる」「拘束・虐待はしません」また、事業所独自に「明るくずっと笑顔で最後まで」を職員全員が名札の裏に入れ常に確認している。ミーティングではその日の出来事を話し合い理念を共有し具体的ケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	あずさ便りを近隣に配布している。地域の行事(どんど焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	あずさ便りを近隣に配布している。地域の行事(どんど焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	毎月あずさ便りを職員が近隣の家の郵便受けに入れ情報を伝えている。春祭りには事業所の庭が子供たちの御神楽の休憩所となっていて、利用者が子供たちにおやつを手渡す等の交流を楽しみにしている。その他、どんど焼きや夏祭り、防災訓練等にも職員と一緒に参加し地域の方達との交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にあずさ便りを配布したり、地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いている。	近隣にあずさ便りを配布したり、地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回参加している。入居者様の様子など活動報告を行い、意見、要望、指導をして頂き、サービス向上に活かしている。また地域行事に積極的に参加している。	ホームの状況・入居者様の様子等活動報告を行い、意見助言、要望、指導をして頂きサービス向上に活かしている。また地域行事に積極的に参加している。	運営推進会議は2か月に1回、第4週の午後開催している。利用者の状況、事業所の行事、職員の研修会等の報告をし参加メンバーから質問、意見、要望を受けている。区長・民生委員からの意見等を受けて、災害時の消防団への協力依頼などの体制作り活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課長寿総務担当、地域包括支援センターの職員との連絡は常にとっている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて、協力関係を築いている。	長寿介護課長寿総務担当、地域包括支援センターの職員との連絡は常にとっている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて協力関係を築いている。	市の担当者とは日頃から連携を密にし、事業所の実情を電話で伝えたり、場合によっては出向くこともある。笛吹市に1年以上住所の無い人の入居についてやオムツ使用料金について連絡があり、ご家族と話し合いがもたれ問題解決にこぎつけたケースもあった。日頃から担当者と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入り口がロック式になっているが、必要時解除している。スタッフは身体拘束をしないケアを心掛けている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を毎日自己評価し記入している。キャリアバスの勉強会に身体拘束についての勉強会を取り入れている。	2階エレベーター前の蛇腹の鍵を閉めているが、必要時開けている。職員は身体拘束をしないケアを心がけている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を毎日自己評価し記入している。	1階、2階共に入り口のドアは安全面等を考慮して施錠している。換気をしたり天気の良い日は開放し職員の見守りや、さりげなく声をかけたり、一緒について行く等、安全面に配慮した対応を行っている。スピーチロックについては5段階のチェック表があり、職員は毎日自己評価し1日を振り返り、サービス向上に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは虐待が見逃されぬ様注意を払い防止に努めている。スピーチロックを自己評価して、カンファレンスにて話し合っている。	職員は、虐待が見逃ごされないように注意を払い防止に努めている。スピーチロックを自己評価してカンファレンスにて話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について研修会に参加したり、市町村連絡協議会に参加し研修を受けている。	権利擁護制度について研修会に参加したり、市町村連絡協議会に参加し研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、充分な説明を行い、また家族からの不安な事や疑問点を尋ねて理解、納得を得ている。解約、改定時には、家族に連絡し理解納得を得ている。	契約の際充分な説明を行い、また家族からの不安な事や疑問点を尋ね理解納得を得ている。解約、改定時には、家族に連絡し理解納得を得ている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

(グループホームあずさ)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やホームからの電話時に意見や要望等を聞き、それに沿える様努力している。またご意見箱を設置している。 運営推進会議に利用者様、御家族様にも参加して頂き意見、要望等を伺っている。	面会時やホームからの電話時に意見や要望等を聞き、それに沿えるよう努力している。	家族の面会時に利用者の状態等を伝え、常に何でも話せる関係づくりに配慮している。面会が月1・2回の家族には電話等で対応する際に聞くようにしている。家族の意見や要望はミーティングで話し合い、日々のケアに反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス(ユニット2回、合同1回)で意見、要望、提案を聞いて運営に反映している。また個人的にも気軽に相談に応じている。	カンファレンス時に職員の意見を聞き、意見の反映に努めている。また個々にも気軽に相談に応じている。	毎月各ユニットで1回、合同で1回、計2回の職員会議を行い、意見・要望・提案を運営に反映させている。個人的に評価表を記入し、それを基に年1回総括課長の面接を実施している。職員の提案で利用者と一緒に過ごす時間確保の為、食事の献立作りや食材の調達を業者に委託する等の希望が受け入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えていると思う。時間外残業をつけて頂いたり、職場環境、条件の整備に努めている。	時間外残業をつけて頂いたり、職場環境・条件を整えて頂いたりと考えていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員参加、外部研修については職員全員が受けられる様に考慮している。あずさ、ショートステイリリー共同によるキャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。	法人内の研修には全員参加、外部研修については職員全員が受けられるように考慮している。ショートステイリリーと共にキャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会研修に参加、他事業所に連絡を取ったりして、交流を深めている。交流の中で同業者の活動、取り組みを聞きサービスの質の向上に努めている。	グループホーム協会研修に参加し、他事業所との交流の中で他事業所の活動や取り組みを聞きサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事に耳を傾け、本人が安心出来る様な関係作りを努めている。利用者様との関わりの中で聴いた事、表情、態度などを情報として集め、関係作り役に立て安心出来る様に努めている。	本人の困っている事や不安な事要望等に耳を傾け、本人が安心出来るような関係作りを努めている。利用者様との関わりの中で感じ取ったり聞いた事や情報を集め、関係作り役に立て安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、契約時に施設の説明を行い、家族からの要望、不安、心配事等を聞き、また入所後の面会時には本人の状況、状態の説明を行いながら関係作りを努めている。	入所時や契約時に施設の説明を行い共に家族からの要望・不安・心配事等を聞き、また入所後の面会時には状況状態説明等を行いながら関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望、困っている事を聞き、今何が必要なかを考えて支援している。	本人や家族の要望と困っている事を聞き、今現在何が必要なかを考えて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしながら、喜怒哀楽を共に感じ、暮らしを共にしていると感じて貰える関係作りを築いている。	介護をしながら喜怒哀楽を共に感じ、暮らしを共にしていると感じて貰える関係作りを築いている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

(グループホームあずさ)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状況、状態を説明し、面会時の少ない家族には電話や面会を増やし行事に参加して頂ける様な声かけを行い、本人を支えていく関係を築いている。	面会時には本人の状況状態等説明し、面会の少ない家族には電話や面会を増やし行事に参加して頂けるような声かけを行い本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達、友人、近所の人の面会時にはまた来て頂く様声かけを行っている。美容院、スーパー、お墓参りなど家族が付き添い外出している。また地域行事にも参加している。馴染みの関係が途切れない様に支援している。	家族や友人の面会時に、また来て頂けるよう声かけを行っている。お盆や年末年始他、家族の付き添いにて外出や外泊される利用者様もいる。馴染みの関係が途切れない様に支援している。	日頃の会話の中から、本人を取り巻く人間関係等の情報を把握するよう努めている。昔からの馴染みの美容院やスーパーに行ったり、家族とのお墓参りや年末年始を家族と過ごしたり、手紙を定期的を書く利用者もいて、一人ひとりの生活習慣を尊重し、継続的な交流が出来るように意識的に支援の中に取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生い立ちや性格を把握し、レクリエーションや行事を通して利用者様同士の間に入り関係作りに努めてお互いに支え合う様な支援に努めている。利用者様同士のトラブルが無い様に常に見守り声かけを行っている。トラブルがあった場合は間に入りお互いの話を聴き、問題解決に努め、支援している。	利用者様の性格や生い立ちを把握し、レクリエーションや行事を通し利用者様同士の間に入りお互いに支え合うような関係作りの支援に努めている。利用者様同士のトラブルがあった場合は、間に入りお互いの話を聞き問題解決に努め支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じて、相談や支援が出来る様に努めている。	本人家族の必要に応じて、相談や支援が出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ADL表、サマリー、紹介状、ケアマネジャーより情報収集している。本人、家族の希望、意向の把握に努めている。	入所時に、ADL表・サマリー・紹介状・ケアマネジャーより情報収集している。また、本人や家族の希望や意向の把握に努めている。	約半数の利用者は自分の思いを言葉で伝えることが出来る。言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。意思疎通の困難な利用者は、日頃の様子や家族や関係者から情報を得よう努めている。ユニットごとのカンファレンス時に話し合い、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の会話から、またサマリー、紹介状、情報提供書等から情報を得たりして、馴染みの暮らし方、サービス利用の把握に努めている。	サマリーや紹介状、情報提供書等から情報を得たり、本人や家族との日頃の会話から生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めに合同カンファレンスを行い、意見、アイデアを出し合いお互いに共有し介護計画に取り入れて作成している。	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めの合同カンファレンスで意見やアイデアを出し合い共有して介護計画に取り入れ作成している。	介護計画に沿って実践されているかどうか、職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケース記録に記載し職員全員で情報の共有を図っている。毎月、担当者が評価しカンファレンスで意見を出し合い、職員の意見を反映させ、急変があれば早急に計画の見直しを行ない、状況に即した計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し職員間で共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し職員間で共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 (グループホームあずさ)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応し訪問、移動美容室への送迎、買い物がある時は付き添い買い物をしている。また買い物を代わりに行っている。急変時に医療が必要な時には付き添いを行っている。	本人や家族の状況やニーズに対応し、移動美容室への送迎、訪問歯科への依頼、必要な物の買い物を代わりに行っている。急変時に医療が必要な時には付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、本人の心身の力を発揮して、安全な暮らしを楽しめる様支援している。	一人ひとりの暮らしを支え、本人の心身の力を発揮して安全な暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、家族の意向を重視している。家族の希望により、かかりつけ医受診、また併設病院外来から内服薬処方、受診したりしている。訪問歯科受診も行っている。緊急時、職員が付き添うが通常は家族に連絡して来て頂いている。	入所時の家族の希望を重視している。家族の希望がある場合家族対応にてかかりつけ医に受診。また緊急時は併設病院外来を受診し内服薬処方してもらったこともある。緊急の場合は職員が付き添うが、通常は家族に連絡して来て頂いている。	入居前からのかかりつけ医の受診は基本的には家族対応となっている。それぞれの受診結果は家族から報告を受けている。併設病院への受診時は職員が付き添い、看護師から結果報告を受け、家族に報告している。受診結果は個々のケース記録に記載し全職員で共有している。歯科医や協力医院の医師の往診が週1回定期的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告をして、日常的に関わって貰っている。必要に応じて受診している。	看護職に報告をして日常的に関わって貰っている。看護職に報告相談し必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所時、サマリー記入や報告を行い安心して治療を受けられる様になっている。また病院関係者と情報交換、連絡を行っている。	入退所時にはサマリー記入や報告を行い、安心して治療を受けられるように病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入所時に説明している。急変時にはマニュアルに沿って同法人の病院受診、対応出来ない場合主治医の指示にて他院に転移、治療を受けて貰っている。	本人家族の意向を踏まえ、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入所時に説明している。急変時はマニュアルに沿って同法人の病院を受診、対応できない場合主治医の指示にて他院に転移して頂いている。	入居時に本人、家族の意向を踏まえ重度化や終末期に向けた方針の共有が図られている。可能な限り継続して事業所での生活が出来る様に日常的な健康管理を行い医療行為が必要な場合でも適切な対応がとれる体制が整っている。「重度化した場合における対応」を定め、急変時は家族の意向を踏まえ、今後の対応について話し合い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えマニュアルを作成している。院内外の研修に参加したり、キャリアバス勉強会にて消防署に行き救急法とAED使用の講習を受けている。	急変時や事故発生時に備えマニュアルを作成している。院内外の研修に参加したり、キャリアバス勉強会にて消防署に行き救急法とAED使用の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練のマニュアルを作成し実施している。入居者様が避難出来る方法を職員が身につける努力をしている。夜間を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。法人全体での防災訓練、地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議でも災害対策を課題に出し意見を頂いている。	月一回避難訓練マニュアルを実施し、入居者様が避難出来る方法を職員が身につける努力をしている。夜間を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。法人内の防災訓練や地域の防災訓練にも参加している。	避難訓練のマニュアルを作り毎月1回実施している。1階はリハビリガーデンの中にある東屋へ、2階は併設病棟の2階に避難する訓練を行い、利用者に避難経路の意識付けを行っている事で職員同士の協力体制が出来ている。夜間対応も年2回、法人全体でも年2回避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも利用者と職員が参加している。非常時の備品も定期的に確認している。水害・災害のマニュアルも作成中である。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

(グループホームあずさ)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損ねない様、言葉使い、口調には注意して対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。	一人ひとりの人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉使いや口調には注意して対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。	職員は一人ひとりの生活習慣を把握し、生き方や生活習慣を崩さない様に対応、排泄時や入浴時等は言葉の使い方・声のトーンに気をつけ、顔色や表情を見ながら一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。利用者の個人ファイルなどの書類は事務所に保管し責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的な声かけ、話しかけを行いコミュニケーションを図り信頼関係作りを努め、本人の思いや希望が表出出来る様に努めている。	声かけを行いコミュニケーションを図り信頼関係作りを努め、本人の希望が表出できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来ることは出来る限り行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。	本人の出来ることは行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは自分で選べる方は本人に任せている。出来ない方には職員がお世話し支援している。洗面、整髪、歯磨き、髭剃りも声かけ見守りを行い、出来ない方は介助をしている。	身だしなみやおしゃれは、ご自分で選べられる方は本人に任せている。出来ない方には、職員がお世話し支援している。洗面、整髪、歯磨き、髭剃りも声かけ見守りを行い出来ない方は介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、野菜切りなど出来る方には参加して頂いている。片付け、下膳も出来る方には行って頂いている。行事で外食会を取り入れしている。	食事前のテーブル拭きや片付け下膳は出来る方には行って頂いている。行事には、ドライブを兼ねた外食会を取り入れしている。	材料の調達・メニュー作成は業者対応となっているが、利用者との会話の中からメニュー内容を変更したり、家族や近隣から野菜や果物などの届け物があった場合にもメニューを変更し季節感を味わってもらっている。年2回の外食、花見弁当、お誕生会、敬老会のお寿司等も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所時好き嫌いを聴き食事量、水分量が1日通り摂取出来る様支援している。入居者様によりその方に合わせた食事形態にして提供している。食事量を常時記録したり、食事量が減ってきたりした場合、チェック表をつけて食事量の確認し支援している。	食事量や形態を一人ひとりに合わせて提供している。水分量も1日を通し摂取出来るよう声かけ支援している。食事量が減ってきた場合、チェック表に記入して食事量を管理し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨きの声かけ、見守りを行い口の中の汚れや臭いが生じない様支援している。出来ない方は職員が介助している。義歯の方は毎日ブラッシング、週1回のポリドント洗浄を行っている。	朝夕の歯磨きの声かけ見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないよう支援している。義歯は毎日ブラッシング週1回洗浄剤を使用している。出来ない方には、職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心掛け、失禁、立ち上がりの悪い方は声かけ、時間誘導を行い自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を記入して排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄に心がけ、失禁のある場合は時間誘導し声かけを行い自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	自尊心に配慮し、個人ファイルの生活援助を基に1人ひとりの身体能力に応じた排泄の声掛けをさりげなく行い、トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツやパット類も本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に配慮し、排便がない場合は日にちを確認して医師の処方した下剤を投与、それでも出ない場合看護師により摘便、洗腸を行っている。またレクリエーションで軽体操、散歩を取り入れる。	食事量や水分量に配慮し、排便が無い場合は日にちを確認して医師より処方された下剤を投与。それでも排便ない場合は看護師により摘便又は洗腸を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2から週3回個人の体調を考慮して入浴をされている。2人介助にて入浴されている方もいる。入浴を嫌がる方には時間を変えたり対応する職員を替えたりして工夫している。	週2回から4回体調を考慮し入浴されている。2名介助にて入浴されている方もいる。併設した病院内の機械浴に入浴されている方もいる。	毎日午後から入浴出来るように準備してある。入浴時間は本人の希望を確認しながら調整している。入浴を嫌がる利用者には、時間を変えたり、声掛けしたり、職員を変え対応の工夫をしている。シャンプー等は備え付けてあるが自分の物を使う利用者もいる。重度の利用者は併設の機械浴を利用している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

(グループホームあずさ)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間照明、騒音などに注意し安心して眠れる様に支援している。また日中は個々にあった休息が取れる様に、また出来ない方には状況に応じてスタッフが支援している。	日中は個々にあった休憩をして頂いている。夜間は、夜間照明、騒音に注意し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している内服についてはお薬手帳を確認している。また薬の変更等あった場合は、申し送りノートに記入したり口頭伝達したりしている。一人ひとりが薬の目的や副作用、用法、用量について理解している。	服用している内服については、お薬手帳を確認している。また薬の変更等あった場合は申し送りノートに記入したり口頭伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの力にあった役割を行って頂き、達成感を持って頂ける様に支援している。また一人ひとりにあった楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの力にあった役割を行って頂いて達成感を持って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴をレクリエーションで行っている。普段行かない場所には行事で出掛けたり家族と外出されたりして戸外に出掛ける様に支援している。また週1回の食材購入時には順番でスタッフと出掛けている。地域行事に参加され戸外で地域の方と交流している。	散歩・外気浴をレクリエーションで行っている。普段行かない場所には行事で出掛けたり、家族と外出されたりして戸外に出掛けるよう支援している。また週1回の食材購入時には順番で職員と出掛けている。地域行事にも参加し戸外で地域の方と交流もされている。	日常的にリハビリを兼ねて庭に出たり、洗濯物を干したり、犬の散歩を兼ねて併設の病院や施設の周りを職員と一緒に歩いたりしている。近隣の方達とも気軽に挨拶を交わしたりしている。季節ごとの花見、年2回の外食(5・11月)や職員が年2回家族招待を計画し、家族と一緒に出掛ける機会を作って交流を深める努力を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理出来る方には、自分で管理して使っている。それ以外の方はお小遣い程度を預かって、必要時渡している。お小遣い手帳に記入して管理している。	お小遣い程度を預かり、本人が必要な時に渡しお小遣い帳に記入して管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出により、自宅へ電話している。本人用の電話を本人管理のもと所持使用して頂いている方もいる。また手紙が書ける方には書いて頂き、投函が出来れば投函して頂いている。	本人からの申し出により自宅へ電話している。本人用の電話を、本人管理のもと所持使用して頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を取り入れた歌、絵、塗り絵などを貼ったり、植木、生花を置いたり、飾ったりしている。不快や混乱をまねく様な刺激物がある場合は速やかに取り除き居心地良く過ごす事が出来る様に工夫、調整している。	生活感、季節感を取り入れた歌・絵・塗り絵等を貼ったり植木鉢を置いたり花を飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関を入った所が広く明るい共有の空間となっている。フロアには、ソファやテーブルが設置してありテレビを見ながらくつろげる場所となっている。季節の花や創作品が飾られ、壁に季節にあった唱歌が貼ってあり、楽しく歌う姿や手作りの新聞受けから新聞を取って読んだり、テレビを見る等思い思いに過ごされている。トイレや浴室は使いやすい間取りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビ、テーブル、椅子、ソファ等を置き、思い思いに過ごされる様な居場所作りを心掛けている。	共有空間にテレビ・テーブル・椅子・ソファ等を置き、思い思いに過ごすことが出来る様な居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族に慣れ親しんだ家具や寝具、衣類などを持ち込んで頂ける様に伝えている。	入所時に、家族に慣れ親しんだ家具や寝具を持ち込んでくれるよう伝えている。	ベッド・洗面台・時計・カーテン・カレンダーが備え付けてあり、ベッドの下の引き出しは小物が収納できるようになっている。書道や家族写真が飾られ家庭的な雰囲気を感じられる。中には仏壇や冷蔵庫の持ち込みがあったり、整理タンス等できれいに収納されていたりと、それぞれに居心地の良い暮らしの場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来る事は行って頂き、身体機能を維持し安全で自立した生活が送れる様に努めている。	本人の出来ることは行って頂き、身体機能を維持し安全で自立した生活が送れるよう努めている。		